

「魅力ある授業づくり」への一歩

授業評価の自由記述の傾向

自由記述の記入件数が
約十倍に増加

授業評価の自由記述の記入件数は、初めてWebで実施した2008年度の春学期1685件、秋学期1616件と、マークシートと自由記述用紙で実施していた2007年度と比べそれぞれ約十倍に増加しました。そこで2008年度春・秋学期の自由記述で使用された用語名詞句の中から、最も多く使用された5位までの用語について、好評として使用されたか、不評として使用されたかを分析し、その出現頻度を図に示しました。好評・不評が不明な使用の場合もあるため、合計が100%にはなっていません。【授業】【板書】【教員】【学生】【声】の順に出現回数が多く、それぞれの用語使用数における好評、不評意見として使用された割合を示しています。

5つの用語から読み取れる
授業の様子

全体の印象を表していると

考えられる「授業」や「教員」については同じように好評意見が多い傾向が現われている。「授業」では「わかりやすい」「楽しい」「面白い」という好評意見が多く、不評意見として多かったのは「難しい」「速い」「中途半端」などでした。「教員」では「わかりやすい」の意見が大半を占めており、不評意見は少く、学生の皆さんは教員の授業方法といった技術に対して不評を呈しているようです。教員はこれらの点を参考に、不評要因を減らすだけでなく、好評要因を増やすことが、魅力ある「授業」につながると認識する必要があります。「また、声」については好評不評の差は少ないものの「板書」や「学生」は不評意見が多い傾向が見られます。「板書」については「活」が見にくい（「が圧倒的で、続いて「小さ」「雑」といった不評意見が多く見受けられます。「学生」の態度では「うるさい」という不評意見が多く見られました。学生の皆さんも周辺に対するマ

ナーについて考えるとともに、教員は「話す」「書く」だけでなく教室の環境にも気を配る必要があることを示しています。学生の皆さんと教員と一緒にならないと、魅力ある「授業」をつくるのが難しいことを、分析結果が語っている。

ではないでしょうか。
次回は、学生による授業評価と教員による授業自己評価の差について分析し、学生の皆さんと教員との意識の違いを取り上げる予定です。
(大学教育研究センター)

図 自由記述における出現頻度の5位までの用語(名詞句)

